

夏に考える「平和」

1945年6月29日、延岡は大規模な空襲によって、多くの市民が犠牲になりました。毎年、本校では6月を中心に平和学習を行っています。今年度は7月22日(水)5時限目に、夕刊デイリー新聞社の坂本光三郎さんを講師にお招きし、放送による平和学習を行いました。今回は、それまでの取組を交えて紹介します。



昼休みの資料展のようす。「怖い」という生徒、意外と多いのです。

6月29日(月)の朝、全校生徒で「延岡大空襲」について、プリント学習をしました。今年度の読後の意見は「この事実をどのように後世に伝えるか」。生徒からはさまざまな意見が出されました。

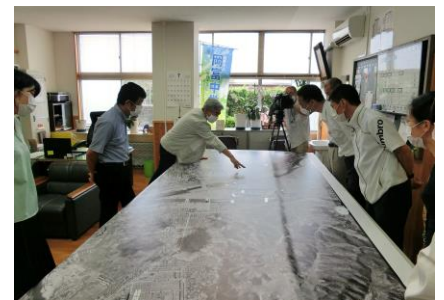
あわせて、南校舎玄関ロビー

先生たちも勉強しました。7月8日(水)、今回の講師でもある坂本さんから、延岡の空襲について、事前に研修をしていたことができました。先生方も知らないことが多く、校区内の歴史を知る良い機会となりました。

で延岡大空襲の資料展を開催しました(資料は夕刊デイリー新聞社からお借りしました。ご協力ありがとうございました)。興味深そうに見る生徒、なかには「怖いから見たくない」という生徒もいました。正直な感想だと思います。

22日の生徒の感想 (部分)

- この講話を聞いて空襲の恐ろしさを深く知ることができました。雨のように降る焼夷弾や焼け野原になった町など、想像するだけでとても背中がぞくぞくしました。私たちが住んでいる川中地区など岡富中校区内は全焼し、火の川、赤い川、赤い町へと変化していったのが分かりました。絶対このような悲劇を忘れず重く受け止め、平和な世の中を続けていくことが大切だと思いました。〔1年〕
- 焼夷弾の話を知っただけで足が震えそうになるので、私がその時いたら逃げ遅れ、犠牲になっていたことでしょう。それなのにその時、私より小さい子どもたちは弟や妹の手を引いて逃げたといいます。大人も子どもも関係なく空襲を受けた事実などを忘れず伝えていくことは、今を生きる私たちにしかできません。犠牲になってしまった命の話を伝えるのは私たちの役目です。〔2年〕
- 印象に残ったことは、空襲が終わり、生活が元に戻ったとしても、人々の心と身体を苦しめ続ける、本当に辛く怖いものだと感じました。自分自身が空襲についてもっと知り、今後の世代に伝えていくことが大事だと思います。〔3年〕



説明する坂本さん(左から3人目)。とても大きな「延岡大空襲地図」に先生方も興味津々。

22日(水)の平和学習は、最初に学級担任から延岡大空襲について振り返ったあと、坂本さんが全校放送で解説しました。今回は、宮崎市在住の俳優・池田知聡さんが、本校のために14

あの戦争から75年。戦争の悲惨さと平和の大切さを次代につなぐことが難しくなっています。6月29日の意見にも「若い世代が語り継いでいく必要がある」と書いた生徒がいました。どのようにつないでいくか、それは私たちの宿題ではないでしょうか。

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組/お名前 (ペンネームもO.K.です)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？ (○・×)